

こんにちは いつもお世話になっております

# 三栄です

第77号

発行元



株式会社三栄サービス

発行人 紺野 琢生



## アフターコロナに向けて もう一度頑張りたい

長らく続いた緊急事態、蔓延防止等重点措置が明け、全国旅割がスタートするなど、社会がアフターコロナに向けて動き始めました。駅や空港、高速道路、観光地は軒並みコロナ前のような賑わいを取り戻しています。また、各地で開催されているイベントも徐々にですが再開しています。私に関わっている団体等でも、リモート併用だったり来賓を絞って縮小開催だったり様子見状態ですが、人が集まる会合やイベントが少しずつ再開しています。

ルエンザの流行も危惧されていますので、会社としてはまだ忘年会等は開催出来ませんし、引き続き感染予防に努めながら作業を行っています。

ただ、回収作業中のマスキングについては、屋外であり、市民の皆様と対面で会話する等の場合を除いて着用しないこととさせて頂きました。夏場の熱中症予防、冬場は眼鏡が曇るのを防ぐためです。ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

それでも、社内でコロナ陽性者が出てしまうと本人及び濃厚接触者の一定期間の自宅待機となり、業務に支障が出てしまいますし、この冬はインフ

ルエンザの流行も危惧されていますので、会社としてはまだ忘年会等は開催出来ませんし、引き続き感染予防に努めながら作業を行っています。

古紙のリサイクルの歴史は、平安時代に遡ります。使用済みの紙を漉き直す方法なので、少し墨の色の残った薄墨紙と呼ばれていました。江戸時代になると、落語にも出てくるようにリサイクルは商売として成り立つようになりまし。近代以降は、建場という資源物の買い取り業者が始めました。戦後、高度経済成長の中、回収はリヤカーからトラックに変化しました。昭和三九年には静岡県でチリ紙交換回収が始まり、昭和四〇年代後半には集団回収が始まりました。平成に入り、古紙価格の暴落、ごみ減量の観点から行政による資源回収が各地で行われるようになりました。

## 紙の良き、紙のリサイクルをもう一度見直したい

こうした長い歴史の中で古紙のリサイクルシステムは築き上げられ、今では日本全国どこでも、市民の皆様が分別排出し、回収業者が分別回収、古紙問屋で選別加工し、製紙会社で再生紙に生まれ変わるという一連の流れが出来ています。

紙がリサイクルの優等生と言われる所以は、何度も生まれ変わる事だけでなく、リサイクルの歴史の長さ、その回収システムが確立されていることであると思えます。

ところが、近年SDGs、カーボンオフセット、サーキュラーエコノミーが叫ばれている中で、成熟しきった紙のリサイクルは置いてけぼりになっているような気がします。

最近のリサイクルの関心ごとは、どちらかというとプラスチックです。それもレジ袋とストローだけが悪者になって紙製ストローがもてはやされていますが、再生紙を利用していないものが多いようですし、使用後のリサイクルも困難です。

紙のように見えて紙ではない、石からできているストーンペーパーは、製紙原料にはならず紙のリサイクルの妨げになっていますが、環境にやさしいといって東京都が推奨しています。

紙は『ペーパーレス』の名のもとに使わないことが良いことになっていくのもどこか違和感を感じます。なるべく再生紙を使う、不要になったものはリサイクルする、という一連の流れがあつてこそ資源の循環が生まれるのです。

最近では、季節の贈り物や年賀状を取りやめますという会社も増えていきます。少し淋しい気がしますがこれも時代の流れでしょうか。弊社が必要な紙は使いつつリサイクルする方針で、小誌も年賀状も引き続き紙ベースで出させて頂きます。